

180  
才  
上

平家  
入  
504E  
性生要集  
上



惠心僧都御像





僧都乃誦云

極樂を結ぶおのゝこころをわづらひ

わづらひしるこころをわづらひしる

おのゝこころをわづらひしるこころを

わづらひしるこころをわづらひしる

こころをわづらひしるこころをわづらひ

しるこころをわづらひしるこころを

序

夫極楽浄土小往生とてばて成佛す

修りの安んずるを教ふるは法は濁世末代の

老のあふ弊害の目をしての治え是をて極

ぞ。邦有難教あるは僧俗男女老も幾も

知らずも愚かなるも信る心と極て此及ぶの

只教養の教法を純文唐半理の業因を極



又多く利根上智ありて要すめあま人の  
 未だ至難とて思ふ人我れおぼる思ふはさか  
 き者ゆめづる元理と悟り難ととげたりん  
 は故に念佛の二門おぼひより安心定して佛  
 経論の中一の行要の文と集書つゝ縁結して  
 常ふ是とひききして修すおぼりあくはるあ  
 くましく十門を巻と二ふ分る。一は六厭離

嫌去二は六欲求淨去二は六極樂の淨  
 横は六の正修念佛六は六の念の方便去  
 一の別修念仏七は六念佛の利益八は六  
 念佛の修後九は六性生の徳業十は六回答  
 料簡也。是と座の右ふ垂てりすれず。さう  
 せん。後とぞしつる

天台耆揚教院沙門源伝撰

往生要集卷之三



往生要集惣目錄

上之卷

○厭離土之事

○平等活地獄之事

○黑繩地獄之事

○衆合地獄之事

○叫喚地獄之事

○大叫喚地獄之事

○焦熱地獄之事

○大焦熱地獄之事

○阿鼻地獄之事

○中之卷

○餓鬼道之事

○畜生道之事

○修羅道之事

○人道之事

○天道之事

○六道之觀相及結事

○下之卷

○聖衆來迎樂之事



- 蓮花初開樂之事
- 身相神通樂之事
- 五妙境眾樂之事
- 快樂無退樂之事
- 引接結緣樂之事
- 聖眾俱會樂之事
- 見佛聞法樂之事
- 隨公供佛樂之事
- 增進佛道樂之事

惣目錄

往生要集卷之上

目錄

- 第一 厭離地獄之事
- 第二 等活地獄之事
- 第三 黑繩地獄之事
- 第四 衆合地獄之事
- 第五 叫喚地獄之事
- 第六 大叫喚地獄之事



第七

焦獄地獄之串

第八

大焦獄地獄之串

第九

阿鼻地獄之串

目錄

往生要集卷之十

往生要集卷之上

大文

地獄物語

第一 厭離穢土之串

花<sup>はな</sup> 厭<sup>あひり</sup> 離<sup>り</sup> 穢<sup>あじ</sup> 土<sup>つち</sup> との<sup>の</sup> 串<sup>くわい</sup>  
 夫<sup>その</sup> 厭<sup>あひり</sup> 離<sup>り</sup> 穢<sup>あじ</sup> 土<sup>つち</sup> との<sup>の</sup> 串<sup>くわい</sup> 不<sup>ふ</sup> 淨<sup>じやう</sup> 土<sup>つち</sup> との<sup>の</sup> 串<sup>くわい</sup> 難<sup>なん</sup> る<sup>る</sup> 子<sup>こ</sup> 也<sup>なり</sup> 以<sup>も</sup> 此<sup>こゝ</sup> 樂<sup>たのしみ</sup> 樂<sup>たのしみ</sup> 世<sup>よ</sup> 界<sup>かい</sup> と 佛<sup>ほとけ</sup>  
 六<sup>む</sup> 乃<sup>なり</sup> と 一<sup>いつ</sup> 劫<sup>やく</sup> 土<sup>つち</sup> 移<sup>うつ</sup> り 劫<sup>やく</sup> と 是<sup>こゝ</sup> を 三<sup>さん</sup> 男<sup>なん</sup> と 一<sup>いつ</sup> 乃<sup>なり</sup> 三<sup>さん</sup> 男<sup>なん</sup> 八<sup>はつ</sup> 安<sup>やす</sup> 住<sup>ぢゆう</sup> の 乃<sup>なり</sup> 火<sup>ひ</sup>  
 宅<sup>たく</sup> の 中<sup>ちゆう</sup> と 佛<sup>ほとけ</sup> と 是<sup>こゝ</sup> を 火<sup>ひ</sup> の 中<sup>ちゆう</sup> と 宅<sup>たく</sup> の 中<sup>ちゆう</sup> と 居<sup>い</sup> る 乃<sup>なり</sup> 是<sup>こゝ</sup> を 厭<sup>あひり</sup> 離<sup>り</sup>  
 土<sup>つち</sup> 也<sup>なり</sup> 今<sup>いま</sup> 其<sup>その</sup> 厭<sup>あひり</sup> 離<sup>り</sup> の 相<sup>さう</sup> と の 子<sup>こ</sup> 不<sup>ふ</sup> 救<sup>きう</sup> 下<sup>げ</sup> 七<sup>しち</sup> 種<sup>しゆ</sup> 有<sup>あ</sup> り 乃<sup>なり</sup> 地<sup>ち</sup> 獄<sup>ごく</sup> 二<sup>に</sup> ツ  
 鐵<sup>てつ</sup> 鬼<sup>き</sup> 三<sup>さん</sup> ツ 六<sup>む</sup> 畜<sup>ちゆう</sup> 生<sup>じやう</sup> 四<sup>し</sup> ツ 阿<sup>あ</sup> 鼻<sup>び</sup> 地<sup>ち</sup> 獄<sup>ごく</sup> 六<sup>む</sup> ツ 天<sup>てん</sup> 人<sup>じん</sup> 七<sup>しち</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 佛<sup>ほとけ</sup>  
 分<sup>ぶん</sup> 一<sup>いつ</sup> 乃<sup>なり</sup> 地<sup>ち</sup> 獄<sup>ごく</sup> 不<sup>ふ</sup> 又<sup>また</sup> わ け 七<sup>しち</sup> ツ 有<sup>あ</sup> り 二<sup>に</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 等<sup>とう</sup> 淨<sup>じやう</sup> 三<sup>さん</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 鬼<sup>き</sup> 生<sup>じやう</sup> 四<sup>し</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 畜<sup>ちゆう</sup> 生<sup>じやう</sup> 五<sup>ご</sup> ツ  
 叫<sup>きう</sup> 喚<sup>わん</sup> 六<sup>む</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 大<sup>だい</sup> 焦<sup>しやう</sup> 獄<sup>ごく</sup> 七<sup>しち</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 大<sup>だい</sup> 焦<sup>しやう</sup> 獄<sup>ごく</sup> 八<sup>はつ</sup> ツ 乃<sup>なり</sup> 阿<sup>あ</sup> 鼻<sup>び</sup> 地<sup>ち</sup> 獄<sup>ごく</sup> 九<sup>く</sup> ツ





闇魔王聽前之図

名生要集卷之...



第二章 地獄

○第一章 地獄の分類 地獄の分類は、その苦痛の程度により、下下地獄、下地獄、中地獄、上地獄、極楽地獄の五階に分けられる。また、その苦痛の性質により、火地獄、氷地獄、風地獄、水地獄、空地獄の五類に分けられる。また、その苦痛の時間により、常時地獄、暫時地獄に分けられる。また、その苦痛の場所により、大地獄、小地獄に分けられる。また、その苦痛の性質により、火地獄、氷地獄、風地獄、水地獄、空地獄の五類に分けられる。また、その苦痛の時間により、常時地獄、暫時地獄に分けられる。また、その苦痛の場所により、大地獄、小地獄に分けられる。

地獄の苦痛は、その苦痛の程度により、下下地獄、下地獄、中地獄、上地獄、極楽地獄の五階に分けられる。また、その苦痛の性質により、火地獄、氷地獄、風地獄、水地獄、空地獄の五類に分けられる。また、その苦痛の時間により、常時地獄、暫時地獄に分けられる。また、その苦痛の場所により、大地獄、小地獄に分けられる。また、その苦痛の性質により、火地獄、氷地獄、風地獄、水地獄、空地獄の五類に分けられる。また、その苦痛の時間により、常時地獄、暫時地獄に分けられる。また、その苦痛の場所により、大地獄、小地獄に分けられる。





等活地獄







の中へ付まゝとて粒と食へり音貝とあき太鼓とつら歌うを  
とめてるはどのと殺したる若くは地獄へ落る七つは極苦不  
よ娘き岸の元へつてあふ思狭の火小焼をほる音わの  
めて殺生したる若くは地獄へ落るなり

こと西法を修むものごとく九つは座の中へすゑふまゝとて

けり三思繩地獄と半

○この思繩地獄といふ著法地獄は下やうは室校度とあふ  
同じ獄卒飛人とてつて換後の地獄へあふ著法換後の縄を  
換ふ雲らんとて換後の糸とあふ雲木の縄をあふめて切裂  
繩をさうさう或は刀にて腹をさうさう切し首を切つた  
こふわじとて又或は殺もぬく換後の縄をかけはく換え  
飛人とて進入する悪風は吹て換後の縄がまわつた月  
骨とて又右のくまも思狭の山を山のうへへ思狭の  
とまゝに思狭の山を思狭の山とほはてあふ思狭の山へ  
下ふ大釜とてさうさうあふく思狭の山へ思狭の山と  
飛人思狭の山と思狭の山の上をわじむ思狭の山とあ  
かの大釜の中へ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ思狭  
けらふ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ  
若くは思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ  
あふ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ思狭の山へ



黒備地獄





王の若ふとてつゝある故りと地獄ふやれ我と悪業不食等々其  
子兄弟親類眷属もすくあるやうに云へり後の所の地獄と云  
其地獄の若より若とすと入結つて次第くふまひうらる半は  
地獄く小形とてて志れし人同の二百歳と切利天の一日一夜とて  
そ命一千歳なり又切利天の命とこの地獄の一日一夜とて命  
一と兼之殺生偷盗の若し地獄ふ落る也又又雨の地獄くは  
等喚多苦所とありて罪人とけりく高き半一重を由旬のき  
しの上ふらげ重て災火くの黒き繩をほの縛りはあれたる  
後ふ岸の下は皆焚地獄とて利刀まむるのどくふ立る怨つて是  
は黒殺の火の牙ある物とれを憎ふ一刃をさすくふとあり

此とらげを吼喚もなするありて昔法と経巻の海ふより  
一切まことなり一切とてりて岸の方とをげて自ら殺したるとも  
け地獄ふ落るると又又雨の雨とありて獄卒とも人ともいふ  
てさるのれ杖とあり上もふむて夜昼はともまや成は火火の黒殺  
の刀とゆゆ也或は黒殺の火の弓といふもあるとはるをじりうり  
追つてとてく切さるく小射る昔物といふもあるとはる人といふ  
れりて食とらひく若し地獄ふありて

舟に鳥合地獄と申

○四つふちのうら地獄とてこの黒殺地獄の下ふら監獄たか同  
け地獄とてこの鳥合とて其ふらまものいひてり半成り

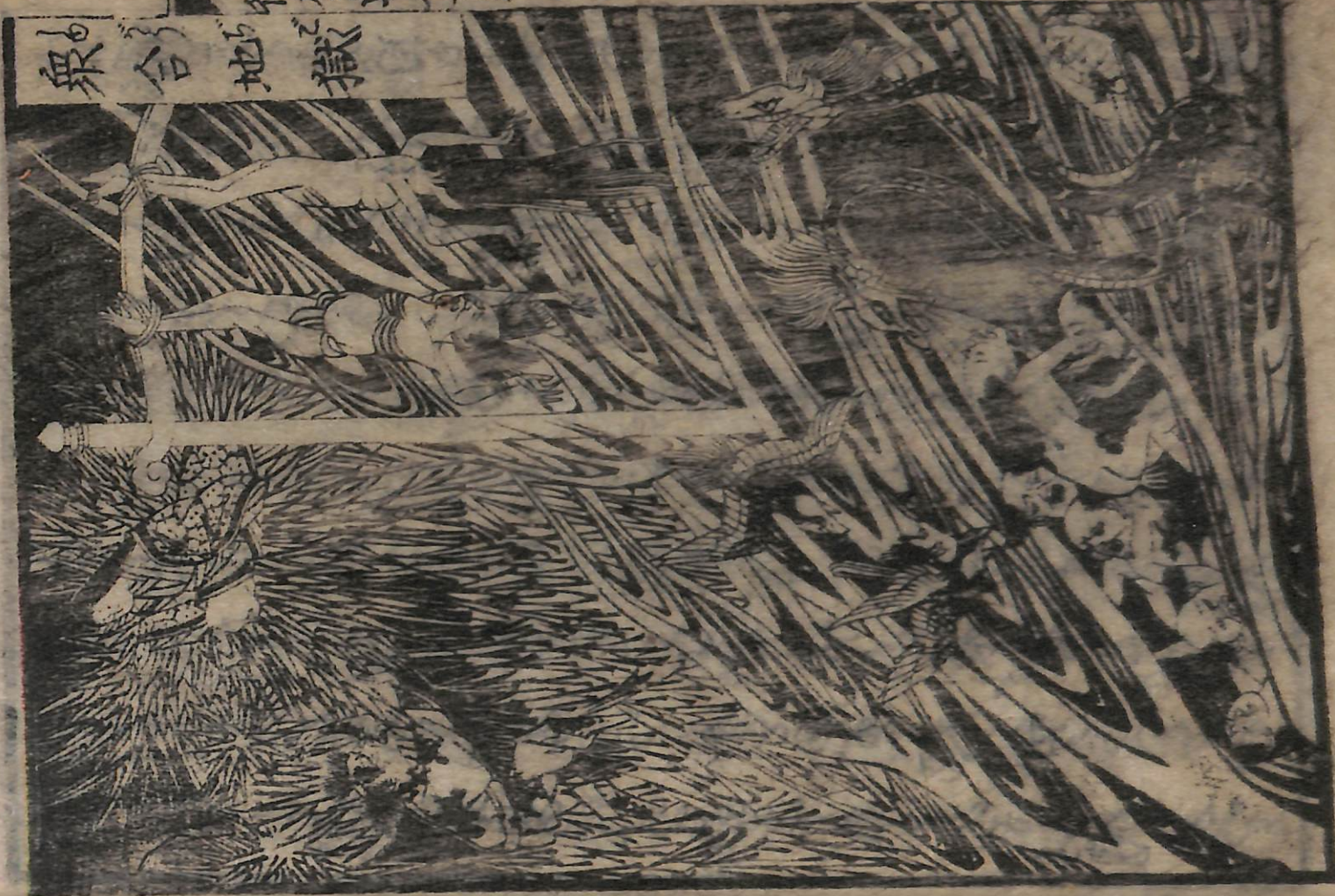


Main body of handwritten text on the top page, consisting of approximately 10 lines of dense script.

Main body of handwritten text on the bottom page, consisting of approximately 10 lines of dense script.



衆合地獄





思ふ事ありしに、おのれもつたは、今かたふとて、我もとせむらふや、いづり  
 らんふとて、入本のうらうらむく、時須の本の葉、上ふめりて、又二方と  
 書き、いづり、輝をほきつらぬらむ、て、たふ、地、上、書、六、竹、女、房、又、本、葉、  
 づ、う、男、さ、れ、り、え、く、又、本、上、う、か、の、正、く、ふ、す、半、葉、百、千、信、  
 歳、お、り、自、う、ん、ふ、た、お、ら、り、て、竹、林、林、の、中、お、く、か、若、く、こ、  
 う、さ、り、邪、欲、と、周、と、ま、る、ん、獄、卒、罪、人、と、呵、嘆、し、と、得、と、経、て、曰、  
 ち、お、ん、人、の、悪、と、は、く、そ、の、お、る、人、若、の、む、ら、ひ、と、う、ら、ふ、お、い、わ、る、自、  
 の、業、と、自、果、と、い、わ、る、名、生、ま、か、ら、の、に、人、間、の、二、百、葉、と、夜、  
 天、の、一、日、一、刻、と、て、寿命、二、百、葉、と、又、夜、十、丈、の、寿命、と、い、地、獄、の、一、日、

一夜、とて、寿命、二、百、葉、な、り、教、生、偷、盜、邪、婦、の、老、以、地、獄、お、あ、る、ぬ、り、  
 い、大、地、獄、お、又、十、六、の、別、お、の、地、く、あ、り、其、中、お、二、百、と、惡、罪、亦、と、な、ら、る、  
 地、獄、と、他、人、の、田、子、と、強、逼、く、邪、り、と、後、と、ま、あ、り、お、く、あ、る、ぬ、り、  
 お、不、落、て、若、と、う、ら、也、罪、人、自、く、う、ら、り、ま、と、り、其、六、地、獄、の、中、お、は、  
 が、獄、卒、罪、徒、の、杖、或、ハ、思、鉄、の、鞭、と、り、て、其、罪、人、の、陰、の、中、と、に、或、  
 ハ、思、鉄、の、お、ら、き、と、い、て、陰、の、中、お、引、こ、ら、す、す、と、お、ま、り、我、子、の、若、と、受、  
 る、と、と、て、世、の、を、ま、き、う、み、り、然、し、み、り、又、て、地、獄、お、く、い、ま、う、と、も、  
 い、ち、む、の、苦、ハ、い、づ、う、火、や、う、く、若、さ、く、あ、ら、い、ま、し、十、丈、の、一、日、お、  
 及、を、せ、ん、の、苦、お、あ、ら、ん、た、く、と、て、又、う、ら、若、と、受、く、光、獄、卒、は、  
 老、若、を、あ、ら、ん、痛、と、湯、お、つ、け、と、妻、お、け、り、身、の、う、ら、お、痛、し、



入あまのくみ焼六府とては其よりなるものなり  
云二ツの昔とらるる半。昔と百の半のうらふまきいふまき  
云別西也。田力かきふやまきとて邪行とたしたる者  
昔とらけふ昔の田力よとていひを力とてく突とを  
来るといひつくひかきと身伴をかまひてとけちり死し  
久り大さふおとせしとて走りまげまて後しに岸より  
冬のはるまき鳥のみのほある机をとりて又忍若菜と云  
の地獄あり地人の女房とぬすみたるものも亦成て昔と  
獄卒飛人ととて木の家へまはまふひかき昔とら火を  
おして一身とておりくく焼つくと又生し又そのとくみ  
火

お焼まこひぐんはをせといひけい猛火はより入く  
かくのごとく昔とらるる半。毎量百千歳もまぬかはず  
修ふはれとてふつふ

中又 叫喚地獄と半

○又つお叫喚地獄と云はれ合地獄の下ふあり。聖様  
獄卒のびまなる半。こののめく。眼の中より火出たる  
者く。まきふとてたまうくして長く狭く走る半。用  
より悪くまき届しに焼くまきと其のまき強くを  
射とすのまのじ人ならぬまきとたきまてのまき  
練くまき悪とたきまて好時の間のみまきとてまき





叫喚地獄

從地獄昇天



いよいよと増して後棒と愛死と地獄の地の上とをいひつゝ  
焼く小車をおくしつゝと是とては或のわき湯の中へ入つて是と  
ある或の極き老のみりつゝ後の車も進入或はあつてはとら  
ひたつて河のゆとあつて金又橋と焼たらしめて車もよりあるなり  
瓶人湯とはて岡王はいつつとさきく十人何とを焼くとの  
おははばばやいふおぢがかわらうあつたや我はかこの意なり我は  
終つておぢをいひとばりまじはれと其時お岡王を答へて曰くおめしと  
おの綱ふたづつとて悪業と作りて今悪業のいひと受けるはあ  
と我とてお瓶人や又曰汝汝は女をおを殺さんと悪知のいふとめ  
となつてつゝつて悪業と作りたり其時おぢを答へて悔はじ今つゝ

せやうつ叶いし おは念の 人間の二百歳と初奉天の二日夜にて存  
曰千歳也又とて天の命といはれ獄の二日夜とて存は千歳之教生  
偷盜邪淫飲酒の老い地獄へ入るゝ又別所の地く十有年中  
小火未定とせける地くつる昔酒とつり不水とてつる老いふ  
處ては百は病と悉く一病お侍する其二つの病のちつ二日夜の間  
に大かの人をか死がうゝ後のほは病と又病とつる中出て其は内骨  
隨とのみこつふ又二つの別所とて火勢とたつ昔酒と人お侍とつり  
つゝつたいしつゝつて其人とわいある老いふ不水とてつる獄の  
火のつるひつゝ二百歳之獄奉天人としてつゝ其火の中へ入つては  
置ようお不水と悉く消うを飛ぶあつたと思へ獄奉天つと



あつて是とらひたりとめく生ふる又火の工く小火の中お切りひ  
かゝるごとく是を百子集とへく若とらるるの止れば卯の刻をいれ  
の文のこゝへ又獄年罪人と呵責して偈とじて同件のおふた  
かひと起し世も世の作法とせうお祝の縁と焼工と火の工くぬ  
ハ酒のやれわり

守六 大叫喚地獄と車

○おふたからうる地獄と云い叫喚地獄の中ふる堅横おふ同  
昔のたまおふたのへん候あのかの地獄あふふとりくの十六  
別々の一切の徳の長と十倍きくうる人もの八百集と化乐天の一日  
一夜とて今八子集と化乐天の令と云い地獄の日夜とて今八子集

わりの救生偷盜邪媒飲酒多淫の若い地獄小畜獄罪人と呵責して  
偈とじていらく宴給いけの天あひやく大海も焼なりつるや其を  
俗の人とやく車格ふる事未なきと焼多し。又十六の別あつ事  
の一とて又海若となく安快の行ひを罪人の名と名と云い  
はしぬきて焼くひがゆりる。又一とて又其の辺若とわらう  
安快の林とめて手若と名きかひ後其の又わらうけるは  
これとて又雨服とぬ事も又若とぬじ又刀とてを若と事  
ひまじま刀とびつと後るもなきびつるや肉身や其のどく  
の若と又その名を女若のひる云い外若と事と

守七 集快地獄と車





大おほ叫ひやう喚わん地ち獄じやく

地獄じやくのの大おほ叫ひやう喚わん



○七つ不集伊地獄と云ふ大叫喚地獄の下なる堅狭小おねり  
獄辛飛人として入りて入りての地の人々の死して或いはわどのは或いはわどは  
以り受て或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
獄き天なる冥夜の梵天の上お垂てたけは考むを是とらるる在ちよ  
まろけいらら夜と焼くすくく或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
より是とほしぬきを或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
飛人の又縁六府百のありて因縁の中と云ふべく火と云ふべし  
或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
は方より冥夜の火をひく算入して青龍小と云ふ  
の火と雲とを同浮提すと云ふ一時の間と云ふべし或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは

うねるものありての事には或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
地獄の人々の死して或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
しくねりや形と云ふ人間の子や百集と云ふ地化自在天の四日  
とて其命二万六千集也又地化自在天の考の四日をいへ地獄の一日一  
夜とて其命二万六千集也或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
地獄おあまねく或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
本龍也と云ふ飛人の死のうらぶ芥子粒も火輪のりたるを  
なすは地獄に人々の死して或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
きたりて或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは  
はま地人いともおあまねく或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは或いは



Main body of handwritten text on the top page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the bottom page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.





佳火熱地獄



佳火熱地獄











大焦炎地獄



往生要集卷之十













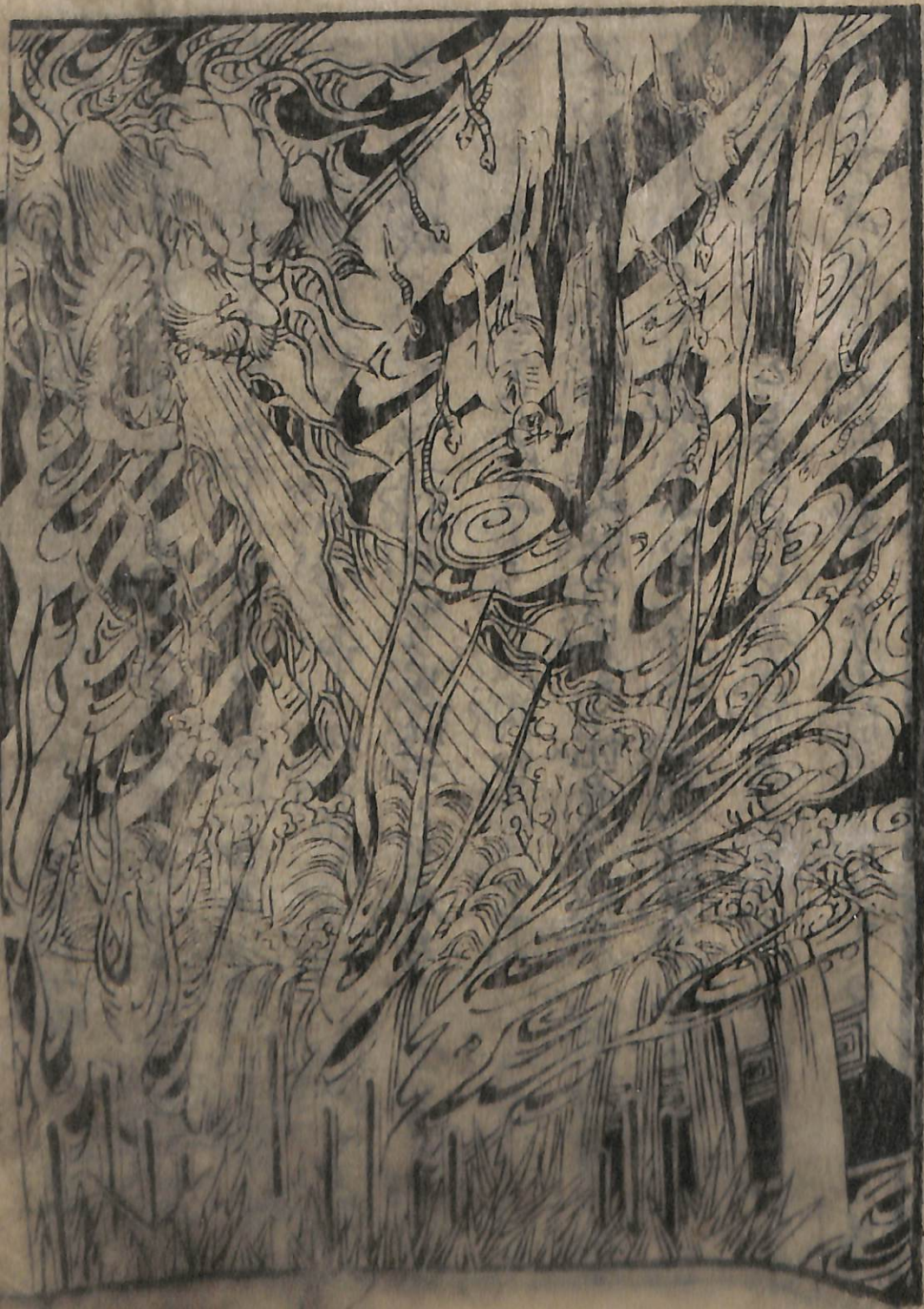
子のいふぼらの写りたるごとくなり。大まかき雪の災にわたる所の  
 城のうらむをほかる。八百位のおきて。八百位千のころぐり火のあは  
 ちる。あちのうりてやくむ。はちのちとて城の火つりてえんま。  
 八百位千の中むとて。しりてりたる。又八百位千の昔の半は長  
 のは地獄に集りたる。 相傳三味線の 累抄のころ 漆加論の中はの巻ふん  
 へ東身多百端結ぬの。三徳の大役地ふたけ。いんがはり火のりじが  
 ほのいとあびて花まき。竹の有情とて。はとらり因大あはた  
 ら骨らとて艶ふとて。とて。枯しおふとら。風とまらて火  
 とは活しおふとて。くたはれをふりえふ。東身多百端結ぬの  
 こあは南方西方社方も入りのとて。他とて。はちのちとて。

法の有情も大花とらじ。交を美をのやび。を成ふ。はちの上  
 下みりて。おのあひとて。昔痛とて。も入りて。く  
 もるあ。ちるあ。人へ。かき。わ。た。ひ。あ。ま。か。く  
 して。た。昔。あ。とて。ふ。り。さ。け。よ。お。う。と。き。産。生。つ。ら。と。と  
 ころ也。又ころの集とて。三徳の雪の災とて。りて。火  
 へ。又。災。の。地。ふ。あ。ま。そ。大。災。後。山。ふ。の。り。し。む。お。う。と。て。又。さ。う  
 下。り。て。あ。ひ。の。ち。う。ま。の。中。う。も。右。と。お。う。く。ぬ。ま。い。り。百。の。あ  
 く。ぎ。あ。ま。ら。半。の。は。と。と。と。と。あ。い。も。ぬ。く。は。る。あ。ま。い。又  
 火。災。の。地。の。う。ふ。ら。と。の。け。お。の。ぐ。ら。と。と。火。災。の。あ。ま。い。り  
 と。と。と。ひ。ら。と。と。三。徳。の。雪。災。の。九。と。と。入。ら。は。ら。の。へ。も。火。災。









阿毘地獄



むすまきう又黒鉄のなとくするあう入ある白鉄のどくせむかと  
 中う骨とどくせむかあう入ある白鉄のどくせむかと  
 赤く喰ひたるかんのあく音とうけてと巨更ホ止時ねく是ハむじ  
 堂塔伽藍ホ火をたて仏像と中と傍房と焼僧の住みとあき  
 若うの地獄ホあう又別あう炭火ホとを多分なる仇久く事絶  
 かく其骨と中とこは血ホあう我肉むとくらひう金あくと洗と  
 火ハア入う又火入又火の馬き地あり彼犯人とまふひつてあ  
 けの甲うとみぬくふかきうて或ハ猛火ホ入て焼こがも或ハ  
 大釜ホあひ入て是と煮たれと炭骨あしうあうなる事まの氷の  
 ごとくかりく又た火とこの小猛火とあらかのどく程く筆を

の若く更で金屋位兼と種あう是ハ音仏の賊物とありあて食  
 とうなるのけ中ホあう又別あうぬ山窟ホとなつて一申也  
 うの黒鉄の山う入うとて犯人とあひまきうなる事まんのけ  
 死あつて又生又さけぬ又十一の火あつて煮くわづかみあつと  
 かく又極辛いとてあうらとあひひく製さきを極極のなるを  
 さけらるあへ焼こみう又黒百に病とりく具置あうあつあく  
 吾とあう事何位兼といふきうは音聲を伴の食とて川てぬ  
 ぼく喰ひては入るものこもあう又別あうを剛毅たホとあ  
 なる地獄小剛毅と云悪もあうま身の大きあう半敵のこも  
 痛つるまのどくあう又火とて甲うなる犯人とけは入て唐あう











汝等と云ては、杖用をせ、柄を焼あるる、冥途の九ヶ世と、  
 中を分る、又と、ねる、あ、病の中、も、我、唯、水、か、は、に、か、と、  
 其、時、小、獄、卒、ら、あ、の、何、と、云、て、を、い、ふ、流、は、か、る、ま、ま、の、君、と、  
 ぶ、あ、る、と、乃、ま、た、の、世、の、作、り、さ、る、悪、業、な、ら、く、の、甚、と、く、感、は、あ、ら、う  
 早、と、い、ま、さ、ら、は、月、と、雲、る、と、た、の、あ、く、ぬ、の、た、ぬ、の、林、墨、淡、の、其、の、林、を、  
 と、集、て、二、三、と、二、の、地、獄、の、門、の、あ、ら、う、故、小、獄、の、ま、ま、に、上、添、加  
 倫、並、小、俱、舍、倫、の、心、に、地、獄、の、界、の、如、く、あ、ら、う、四、の、集、集、有、合、七、十  
 六、と、す、る、と、平、法、多、羅、の、八、大、地、獄、十、六、刹、和、各、面、に、形、を、い、は、す、月、ど、り、た、又  
 額、初、陀、未、の、八、等、地、獄、を、い、は、す、六、經、論、の、じ、ま、と、休、た、い、と、あ、ら、う、  
 往生要集卷之上終



山知念

書集



鷲尾伝